

ノロウイルス食中毒について(後編)

今回は、前回に引き続きノロウイルス食中毒について(後編)をお届けします。

手洗いの重要性と消毒方法についてご紹介します。
正しい手洗いと消毒を実施して、ノロウイルスによる食中毒事故を防止しましょう。



とっても小さい

ノロウイルスには2度洗いが効果的！

ノロウイルスはとても小さいため、皮膚のシワや指紋などの凹凸に入り込み、1度の手洗いでは除去が不十分になります。しかし、2度洗いをすることによって手洗い前の10万分の1未満までウイルスを減らすことが出来ます。

手洗い方法	残存ウイルス
手洗いなし	1,000,000,000個
流水で15秒手洗い	10,000個
ハンドソープで60秒手洗い後、流水で15秒すすぎ	数十個
ハンドソープで10秒、手洗い後流水で15秒すすぎこれを2回繰り返す	約数個

ノロウイルスは
10~100個
程度で感染する
と言われています

感染する
可能性あり



60秒×1回よりも、10秒×2回の方が効果があります
すすぎ時間を含めても、2度洗いの方が短時間で効果的です

2度手洗いのタイミング

- ① 作業開始前及び用便後
- ② 汚染作業区域から非汚染作業区域に移動する場合
- ③ 食品に直接触れる作業にあたる直前
- ④ 生の食肉類、魚介類、卵殻等微生物の汚染源となるおそれのある食品等に触れた後、他の食品や器具等に触れる場合
- ⑤ 配膳の前



次亜塩素酸ナトリウムによるノロウイルスの不活化

ノロウイルスには次亜塩素酸ナトリウムを使用した消毒が有効となります。
次亜塩素酸ナトリウムは、使用する場所やその用途によって濃度が異なります。

消毒対象	処理例
調理器具等	洗剤などで十分に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）で浸すようにペーパータオル等で拭く（加熱できる物については熱湯での加熱が有効）。
ドアノブ、カーテン、リネン類、日用品	次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200～500ppm）で浸すようにペーパータオル等で拭く。
トイレ・浴槽	次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度300ppm以上）で浸すようにペーパータオル等で拭く。
おう吐物・ふん便による汚染場所	・おう吐物等は、ウイルスが飛び散らないようにペーパータオル等で静かに拭き取り、ビニール袋に密閉して廃棄する（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度1000ppm）を入れることが望ましい）。 ・床等の汚染場所は次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）で浸すようにペーパータオル等で覆うか、拭きとり、その後水拭きする。
患者使用のリネン及び下着類	・廃棄するのが望ましいが、煮沸消毒も有効（水やお湯のしびきを吸い込まない等、二次感染への注意が必要）。 ・煮沸消毒が行えない場合には、洗剤を入れた水の中でウイルスが飛び散らないように静かにもみ洗いし、有機物を取り除いた後、次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）の消毒が有効（十分すぎ、高温の乾燥機などを使用すると殺菌効果が高まる。また、もみ洗いの石けん液には次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度1000ppm以上）を加えて、10分以上置いたのち、捨てること。）。 ※可能であれば、ふん便・吐物が付着した衣類は、もみ洗いをせず、次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度1000ppm以上）に漬け置きする方が洗濯時の二次感染を防ぐ上で好ましい。 ・布団などすぐに洗濯できない場合は、屋外で、日光に当ててよく乾燥させ、スチームアイロンや布団乾燥機を使うと効果的。

※作業時はガウン（エプロン）、マスクと手袋を使用し、換気を十分に行いましょう！
※使用後の手袋やペーパータオル等はビニール袋に入れて捨てましょう！

内閣府食品安全委員会HPより抜粋

次亜塩素酸ナトリウム（塩素濃度200ppm）消毒液の作り方

塩素系漂白剤（塩素濃度6%）の場合：**300倍希釈**
例：6Lの水に対し漂白剤を20ml

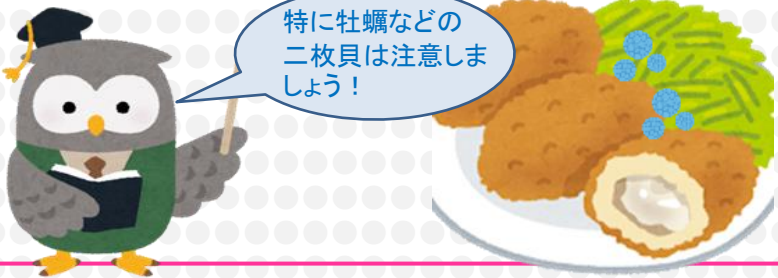


加熱調理によるノロウイルスの不活化

ノロウイルスの汚染が心配される食品の加熱

☆中心温度 **85～90℃**
☆時間 **90秒以上**

一般にウイルスは熱に弱く、加熱処理はウイルスの活性を失わせる（失活化といいます。）有効な手段です。
ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などの食品の場合は、中心部が**85℃～90℃で90秒以上**の加熱が望まれます。



汚染物の処理は初期対応を完璧に！
汚染物処理の初期対応が不十分であると、汚染物に触れた手指、靴などを介して短時間でウイルスが施設内に拡がります。残ったウイルスは、汚染場所を清掃したモップなどを介しても汚染を拡げ、乾燥すると塵や埃とともに空気中に舞い上がります。環境中に汚染を拡げないため、汚染物の処理は迅速かつ適切に行いましょう。

汚物処理の手順 ※処理中・処理後は十分に換気すること！

- ① エプロン、マスク、手袋を着用し、身だしなみを整え、次亜塩素酸ナトリウムの1,000～5,000ppm希釈液を作る。
- ② 汚染を広げる危険があるため、同一面での二度拭きをしない！
- ③ 拭き取った汚物は次亜塩素酸ナトリウムの希釈液に浸し、廃棄する。
- ④ 汚物が付着していた床とその周囲を、次亜塩素酸ナトリウムの希釈液を染み込ませた布等で覆うか、浸すように拭く（10分程度たったら水拭きを行う）。
- ⑤ 使用したエプロン・マスク・手袋は拭き取った汚物と同様に処分する（③参照）。処理後は、付着した汚物が飛び散らないように手袋を裏返して外し、手洗いを行う。

新型コロナウイルスに関する情報は [こちら](#)

ニイタカホームページに新型コロナウイルスに関する情報法を掲載しております！

NITAKA